

第三段階 初期ユダヤ宣教

E. イエスはサマリアで弟子を作る

6. イエスはシカルで弟子訓練に従事する

デイリージーザスニュース #048
ヨハネ4.39-42

39 その町のサマリア人の多くは、女の証言によってイエスを信じた。「あの人は、わたしのしたこと

とをすべて言い当てたのです。」

40 そこで、サマリア人たちはイエスのもとに来て、自分たちのところに泊まるようにと頼み続けたので、イエスはそこに二日間滞在された。41 そして、イエスの教えを聞いて、さらに多くの人々が信者となった。

42 彼らは女に言った。「私たちは、もうあなたの話だけでは信じません。私たちは、自分ではっきりと聞いて、この方が本当に世の救い主であると確信しました。」

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = ^{MT}、マーク = ^M、ルーク = ^L、ジョン = ^J、使徒行伝 = ^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書の書を識別します。さらに、 *イエスの言葉は赤の斜体で表記されています*。旧約聖書からの引用は大文字で表記されています。

コンテキストダイジェスト	
位置	サマリアのシカル
タイムライン	西暦8月30日 (第7月)
イエスの生涯	ステージ III: 初期ユダヤ宣教
	E. イエスはサマリアで弟子を作る
タイトル	6. イエスはシカルで弟子訓練に従事する

コメント :

第三段階 初期ユダヤ宣教

イエスがシカルで宣教に携わった実り豊かな時期は、ガリラヤに重点を置いた約2年間の宣教期間への完璧な移行をもたらしました。イエスはユダヤ、サマリア、そしてガリラヤでの例を通して、伝道の戦略と方法論に関する素晴らしい教訓を私たちに与えています。ぜひご覧ください。

効果的な伝道活動は、互いに影響し合う2種類の伝道活動のバランスをとります。イエスは宣教活動全体を通じて、意図的に両方のアプローチを同時に使用しました。2種類の伝道活動とは何でしょうか。

初期のユダヤ宣教の際、イエスは個人伝道に重点を置いたことを私たちは見てきました。つまり、個人に証言し、イエスを信じる信仰に導き、次に彼らが自らの証言で他の人たちと協力するように訓練することで弟子を増やしたのです。このプロセスは個人に焦点を当てながらも弟子を増やしました。この戦略は集団に説教することに基づくものではありません。個人との個人的な会話に基づいています。これがイエスの例に見られる最初の伝道です。

しかし、初期ユダヤ教時代には、イエスは第二の伝道活動、つまり人々の集団に福音を公に宣べ伝えること、つまり集団伝道にも関わっていました。ヨハネの宣教活動はこの第二の伝道活動の特徴であり、ヨハネの公の説教はイエス自身の宣教活動の開始より約6か月前に行われていたため、イエスはヨハネの集団伝道活動に自ら関与することなく、それに協力し、関わることを選びました。イエスはいかなる形でもヨハネと競争することを拒みました。

そこでヨハネは説教し、公の説教の成果である求道者の流れを絶えずイエスのもとに送り、個人伝道によるさらなる宣教を依頼しました。ユダヤにおけるイエスの伝道活動では、両方のタイプの伝道が完璧なバランスで活用され、イエスは個人的に伝道と個人への弟子訓練に重点を置きました。

すでに述べたように、イエスは洗礼者ヨハネとの競争を世間に感じ取ったとき、二人の間の一致と優れた協力関係が維持されるように、すぐに宣教の場をガリラヤに移すことを決意しました。

イエスがシカルで宣教活動を行っていたとき、彼は井戸のそばの女性に個人的に伝道し始めました。女性がイエスを信じるや否や、彼女は町で伝道活動を始め、信者の増加が始まりました。しかし、彼女が町から大勢の人々をイエスのもとに連れてくると、イエスは集団伝道活動にも従事し始めました。イエスは群衆に福音を宣べ伝えたのです。

イエスはまた、弟子たちに、自分の監督のもとで個人的な伝道活動に従事するよう命じました。ここで、イエス自身が両方のタイプの伝道活動に同時に従事しているのがわかります。イエスは、洗礼者ヨハネとの競争という印象を避けるために注意する必要はもうありませんでした。イエスは、個人伝道と集団伝道の両方に自ら積極的に従事することで、宣教活動の効果を次のレベルに引き上げる準備ができていました。

初期ユダヤ宣教の時代は、シカルでイエスを信じる非常に重要な信仰告白によって締めくくられました。サマリア人の女性と、イエスを信じたシカルのその他の人々は皆、イエスが本当に「**世界の救世主**」であることを知りました。これは**壮大な信仰告白**です。原文のギリシャ語で定冠詞が使われているのは、**イエスが世界の唯一の救世主であり、さらに完全な世界の救世主であることを意味します。ユダヤ人の**

第三段階 初期ユダヤ宣教

信者が、すでに」異教徒」のサマリア人が享受していたのと同じ程度の確信をもってこの告白をできるようになるまでには、何年もかかりました。

イエスが数日間シカルに留まり、新しい弟子たちと交わり、訓練するために」滞在」するこの場面は、洗礼者ヨハネと非常に密接な関係があったユダヤにおけるイエスの初期の宣教活動の終わりを示しています。イエスはガリラヤに入り、洗礼者ヨハネがこれまで知らなかった力と称賛をもって、その民衆に福音を説く準備ができていました。今や彼の説教には癒しと悪魔祓いが伴い、大勢の人々が地域中から彼のもとに集まるでしょう。

」異邦人のガリラヤ」は以前と同じではなくなりました。救世主イエスが来られるのです。

応用：

イエスと同様、私たちもイエスの証人として、自分の宣教活動の中で両方の伝道を組み合わせる必要があります。つまり、私たちは個人的な伝道と弟子訓練を通して常に弟子を増やし、同時に集団伝道にも参加する必要があります。これを行う最良の方法は、自分の地元の教会を通して行うことです。私たちは、毎週個人的に伝道に携わっている人々を教会の集会に連れて行き、そこで福音を聞くように努めるべきです。

イエスは伝道を自転車のように機能するように設計しました。個人伝道と集団伝道という2つの車輪が完璧に連携しています。イエスがしたように、私たちが両方の伝道を同時に行うと、増殖を通じて一貫した成長が見られます。

あなたは両方の伝道を実践していますか？どちらの伝道の方があなたにとってやりやすいですか？より良いバランスを実現するために何をする必要がありますか？今日からそれをどのように始めますか？